

イワシ類成魚の分布生態の研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：資源海洋科 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、対象魚種の漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

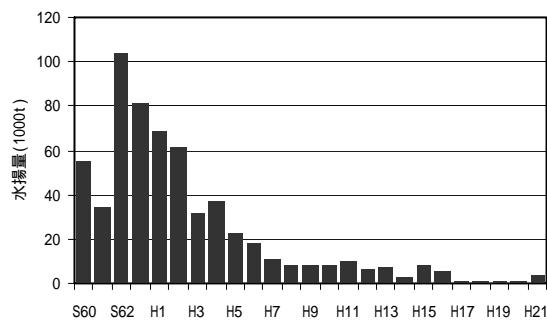
イワシ類についても、沿岸に出現するイワシ類成魚の漁獲統計や魚体組成を調査し、その成熟実態と併せて回遊との関連を検討します。

【これまで得られた成果】

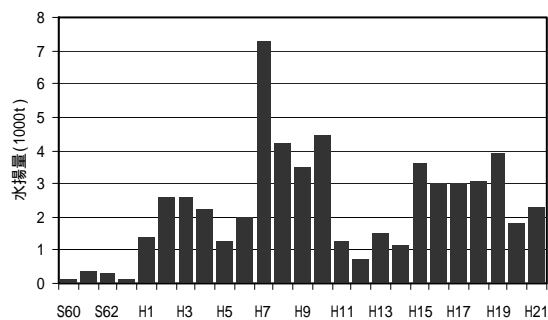
- ・県内におけるマイワシの水揚量は、昭和62年をピークに減少傾向にあり、近年は極めて低水準で推移していましたが、平成21年は近年では資源水準が比較的高かった平成20年生まれ群が漁獲され、前年の7倍の水揚となりました。
- ・県内におけるカタクチイワシの水揚量は平成元年に急増して以来、平成7年をピークに高水準で推移しています。
- ・平成21年に水揚量増加をもたらしたマイワシ平成20年生まれ群は、収集した漁獲統計や生物情報等の検討から、静岡県沿海を含む相模湾から伊勢・三河湾に大量に補給された沿岸群と考えられました。相模湾～渥美外海でマシラスとして500トンレベルの補給は、この海域で0～1歳魚としてそれぞれ7,000～8,000トンレベルの水揚に結びつく潜在力と推定されました。この群は既に成熟しており、今後の漁場形成や資源回復との関係が注目されます。



上：マイワシ、下：カタクチイワシ



県内マイワシ水揚量の推移



県内カタクチイワシ水揚量の推移

【期待される成果】

- ・水揚量等、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に来遊機構や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や資源管理目標について検討を行うことが可能となります。

【今後の計画】

- ・成熟実態と漁況の関係、県内の漁況と全国の漁況との関係について検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類来遊機構について把握します。

(作成 平成22年4月)